千賀ゆう子企画公演「S」シリーズ vol.55

# 平家を語る

## ～エレクトリック大正琴とのセッションで語る「平家物語」原文の世界～　―木曾最期　ほか　―

平家一門の栄枯盛衰を軸に紡がれていく日本を代表する一大叙事詩『平家物語』。 ここには、大きな歴史の渦の中を必死に生き抜こうとする人間達のリアルな葛藤、喜怒哀楽、慟哭がありありと描かれている。　望むべく歴史は個人の努力ではどうにもならないが、懸命に立ち向かう個々の姿が絡みあってこそ歴史が形作られていくことを『平家物語』は活き活きと感じさせてくれるのである。

今回は、巻第九「木曾最期」を中心に構成します。倶利伽羅峠での圧勝により功績を挙げた源義仲。だが、かねてからの頼朝との不仲に加え、後白河法皇との関係も悪化し、ついには頼朝が派兵した討伐軍の手によって粟津の松原で討たれてしまう……。女武者巴の活躍や、乳兄弟、今井四郎兼平との情愛溢れた最期も有名な場面です。

構成・演出／千賀ゆう子

出演／喜多川剛　木舘愛乃　木下祐子　清水周介　千賀ゆう子

楽士／竹田賢一　（エレクトリック大正琴）

日時／2013 年7月27日（土）　15時・19時半

28日（日）　15時

料金／￥2,800（学生￥2,200）

ご予約・お問い合わせ／ストライプハウスギャラリー

TEL：03-3405-8108(11:00～18:30)

FAX：03-3403-6354(24H)

http://striped-house.com/

※席数に限りがございますので、なるべく事前にお問い合わせ下さい。

※受付開始は開演 45 分前。開場は開演 15 分前、受付順となります。

竹田賢一（たけだ　けんいち）●1948 年東京生まれ、片肺日本人。電気大正琴即興演奏家。1975～76 年の＜学習団＞、79～81 年の＜Vedda Music Workshop>以来、マルチメディアを志向したパフォーマンスを試行。休止中の反ポップ・バンド A-Musik をはじめとする音楽、演劇、批評、舞踏などの境界領域で活動を続ける。演劇関係では、ヨシ笈田カンパニー、DA・M、CLASH（香港）らに加え、千賀ゆう子とも多くの共同作業を積み重ねてきた。

於／ストライプハウスギャラリーB１

【千賀ゆう子企画】 役者千賀ゆう子が 1982 年に設立。自身による企画、構成、演出、出演による作品の上演を東京を拠点に国内外に展開。古典から前衛まで幅広い視座をもちつつ、言葉と身体性を問い直す実験的な舞台活動を継続。金沢、新潟、仙台、岐阜、京都、高岡との交流も十年以上。国外では 1954 年よりポーランドはワルシャワ、クラクフ、ウッジ、ルブリン等 6 回の招聘公演、韓国、ルーマニア、ギリシャの招聘公演、ワークショップ多数、本質的な交流を目指す。千賀ゆう子個人としては「語り」の分野での公演も多く、カルチャー等の講師も多数つとめる。CD に『平家を語る～建礼門院・小宰相の巻～』（2 枚組）、『桜の森の満開の下』がある。　http://homepage3.nifty.com/senga-unit/